(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4668559号
(P4668559)

(45)発行日　平成23年4月13日(2011.4.13)　(24)登録日　平成23年1月21日(2011.1.21)

(51)Int.Cl.		F I		
B42D 9/00	(2006.01)	B42D	9/00	B
B42F 21/04	(2006.01)	B42D	9/00	D
B65C 9/18	(2006.01)	B42F	21/04	D
B65C 9/30	(2006.01)	B65C	9/18	
B65H 41/00	(2006.01)	B65C	9/30	

請求項の数 3　(全 19 頁)　最終頁に続く

(21)出願番号　特願2004-215106 (P2004-215106)
(22)出願日　平成16年7月23日 (2004.7.23)
(65)公開番号　特開2006-35471 (P2006-35471A)
(43)公開日　平成18年2月9日 (2006.2.9)
審査請求日　平成19年6月17日 (2007.6.17)

特許権者において、権利譲渡・実施許諾の用意がある。

(73)特許権者　304025105
加納　勝志
千葉県習志野市谷津６－１９－３　津田沼フラット１２０３号
(73)特許権者　506377569
加納　雅代
千葉県習志野市谷津６－１９－３　津田沼フラット１２０３号
(72)発明者　加納　勝志
静岡県浜松市西伊場町７番４号　ＪＲＣ３
(72)発明者　加納　雅代
静岡県浜松市西伊場町７番４号　ＪＲＣ３

審査官　荒井　隆一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】付箋貼り具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

本体容器内に供給リール、巻取リール、分離用ローラ、押圧用ローラを回動自在に設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配した未使用の第１付箋付きテープを繰り出す前記供給リールと、使用後の前記第１付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記供給リールより繰り出した前記第１付箋付きテープを前記分離用ローラに沿わせて湾曲させることで前記第１付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記供給リールと前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記分離用ローラを配置し、前記第１付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付けるように前記本体容器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設けた、付箋を貼り付ける第１付箋貼り具。

【請求項２】

本体容器内に供給リール、巻取リール、押圧用ローラを回動自在に設け、ピンを固定して設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配した未使用の第１付箋付きテープを繰り出す前記供給リールと、使用後の前記第１付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記供給リールより繰り出した前記第１付箋付きテープを前記ピンに沿わせて湾曲させることで前記第１付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記供給リールと前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記ピンを配置し、前記第１付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付けるように前記本体容

器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設けた、付箋を貼り付ける付箋貼り具。

【請求項３】

本体容器内に巻取リール、第２分離用ローラ、押圧用ローラを回動自在に設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配し孔を設けた未使用の第２付箋付きテープの繰り出す空間と、使用後の前記第２付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記第２付箋付きテープの繰り出す空間より繰り出した前記第２付箋付きテープを前記第２分離用ローラに沿わせて湾曲させることで前記第２付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記第２付箋付きテープの繰り出す空間と前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記第２分離用ローラを配置し、前記第２付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付けるように前記本体容器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記第２分離用ローラの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う第２従動歯車を前記第２分離用ローラに同軸的に一体に設け、前記第２従動歯車に噛み合う第３従動歯車を設け、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記第３従動歯車に噛み合う第４従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設け、前記第２付箋付きテープの繰り出す空間内に前記第２付箋付きテープを繰り出す供給リールを回動自在に設けた、付箋を貼り付ける第３付箋貼り具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配した付箋付きテープの付箋を紙面等に貼り付ける付箋貼り具に関する。

【背景技術】

【０００２】

一般に、検索の利便性を考慮して、文書、冊子等の必要箇所に付箋の貼り付けを行っているが、貼り付け方法は、方形の付箋が付箋の辺に沿って付された接着剤の細い帯によって相互に接着された付箋積層体から付箋単体を手の指等により剥離し、貼り付けている。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

前記従来例は、手の指等で剥離、貼り付けを行うため時間がかかりやすく、また、手の指等の大きさより小型の付箋を貼り付けることが必ずしも円滑に行われないという問題がある。

【０００４】

本発明は、前記問題を解消し、さらに、携帯可能な、付箋を貼り付ける付箋貼り具を提供することを目的とする。

【０００５】

また、本発明は、付箋を貼り付ける付箋貼り具のテープカートリッジを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００６】

本発明によると上記課題は、次のようにして解決される。

（１）本体容器内に供給リール、巻取リール、分離用ローラ、押圧用ローラを回動自在に設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配した未使用の第１付箋付きテープを繰り出す前記供給リールと、使用後の前記第１付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記供給リールより繰り出した前記第１付箋付きテープを前記分離用ローラに沿わせて湾曲させることで前記第１付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記供給リールと前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記分離用ローラを配置し、前記第１付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付ける

ように前記本体容器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設けた、付箋を貼り付ける第１付箋貼り具とする。

【０００７】

（２）本体容器内に供給リール、巻取リール、押圧用ローラを回動自在に設け、ピンを固定して設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配した未使用の第１付箋付きテープを繰り出す前記供給リールと、使用後の前記第１付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記供給リールより繰り出した前記第１付箋付きテープを前記ピンに沿わせて湾曲させることで前記第１付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記供給リールと前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記ピンを配置し、前記第１付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付けるように前記本体容器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設けた、付箋を貼り付ける付箋貼り具とする。

【０００８】

（３）本体容器内に巻取リール、第２分離用ローラ、押圧用ローラを回動自在に設け、接着剤を塗布した付箋をテープに貼着し配し孔を設けた未使用の第２付箋付きテープの繰り出す空間と、使用後の前記第２付箋付きテープを巻き取る前記巻取リールを配置し、前記第２付箋付きテープの繰り出す空間より繰り出した前記第２付箋付きテープを前記第２分離用ローラに沿わせて湾曲させることで前記第２付箋付きテープより前記付箋が剥離する湾曲させた場所かつ前記第２付箋付きテープの繰り出す空間と前記巻取リール間かつ前記押圧用ローラの近傍に前記第２分離用ローラを配置し、前記第２付箋付きテープより剥離した前記付箋を貼り付ける面の上で押し付けるように前記本体容器前端の開口部に配置した前記押圧用ローラに同軸的に一体に設けた駆動歯車を構成する一方、前記第２分離用ローラの円筒部の外周に沿わせて前記駆動歯車に噛み合う第２従動歯車を前記第２分離用ローラに同軸的に一体に設け、前記第２従動歯車に噛み合う第３従動歯車を設け、前記巻取リールの円筒部の外周に沿わせて前記第３従動歯車に噛み合う第４従動歯車を前記巻取リールに同軸的に一体に設け、前記第２付箋付きテープの繰り出す空間内に前記第２付箋付きテープを繰り出す供給リールを回動自在に設けた、付箋を貼り付ける第３付箋貼り具とする。

【発明の効果】

【０００９】

本発明によれば、次のような効果を奏する。

（１）本発明の請求項１記載の発明によれば、付箋の貼り付けの時間短縮ができ、手の指等の大きさより小型の付箋を貼り付けることが簡単にでき、携帯が容易にできる。

【００１０】

（２）本発明の請求項２記載の発明によれば、付箋の貼り付けの時間短縮ができ、手の指等の大きさより小型の付箋を貼り付けることが簡単にでき、携帯が容易にでき、付箋を分離する部分の製造コストが低減できる。

【００１１】

（３）本発明の請求項３記載の発明の発明によれば、付箋の貼り付けの時間短縮ができ、手の指等の大きさより小型の付箋を貼り付けることが簡単にでき、携帯が容易にできる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１２】

以下に、本発明の実施の形態を説明するが、本発明の範囲は、以下に説明される実施の形態に限定されるものではない。最初に本発明の一実施形態である第１付箋付きテープについて記す。図面は本発明の一実施形態を示し、図３は、第１付箋付きテープの一部を描いた部分縮小平面図、図４は、図３における０１－０２線断面図である。

【００１３】

図３～図４において、第１付箋付きテープは、接着剤（１７）を塗布した付箋（１５）をテープ（１６）に貼着し配してある。

【００１４】

また、図３～図４に示す一実施形態のように、前記第１付箋付きテープにおいて、付箋（１５）と隙間（２２）を交互に配列してもよい。

【００１５】

また、図９に示す一実施形態のように、図３に示した実施形態において、前記第１付箋付きテープにあって、付箋（１５）を連続に配列してもよい。

【００１６】

また、図１０に示す一実施形態のように、図９における０３－０４線断面図で、図４に相当する図であり、前記第１付箋付きテープにあって、テープ（１６Ａ）の幅が付箋（１５）の高さより小さくてもよい。テープの材料費を少なくすることができる。

【００１７】

次に、本発明の一実施形態である第１付箋貼り具について記す。図１は、第１付箋貼り具の正面図、図２は、第１付箋貼り具において、第１付箋付きテープを装着していない、上面から見た図、図５は、図２における０５－０６線断面図である。なお、図１～図２、図５～図８、図１１における左方向を前方とする。

【００１８】

図１～図２、図５～図８、図１１は、本体容器が透明であり、本体容器内に組込んである機構が透視できる場合を示してある。

【００１９】

図５において、第１付箋貼り具（１）は、前端が開口（２）する本体容器（３）内に供給リール（４）と巻取リール（５）を配設し、開口（２）に押圧用ローラ（６）を設け、供給リール（４）に巻回した未使用の第１付箋付きテープ（７）を繰出して分離用ローラ（８）を通して使用後の第１付箋付きテープ（７）を巻取リール（５）に巻き取らせるようにしてある。

【００２０】

図１～図２、図５において、供給リール（４）は、回動自在に支軸（１３）で支持し、未使用の第１付箋付きテープ（７）を装着し、回転により繰り出すように構成してある。なお、供給リール（４）に、公知の技術である転写具の逆転防止機構を設けてもよい。

【００２１】

巻取リール（５）は、回動自在に支軸（１１）で支持し、巻取リール（５）の円筒部の外周に沿わせた従動歯車（１２）を同軸的に一体に設け、従動歯車（１２）を駆動歯車（１０）に噛合うよう配置し、使用後の第１付箋付きテープ（７）を巻取リール（５）の回転により巻取るよう構成してある。なお、巻取リール（５）に、公知の技術である転写具の逆転防止機構を設けてもよい。

【００２２】

分離用ローラ（８）は、回動自在に支軸（１４）で支持し、供給リール（４）より繰り出した第１付箋付きテープ（７）を分離用ローラ（８）に沿わせて湾曲させることで第１付箋付きテープ（７）より付箋（１５）が剥離する湾曲させた場所に設け、供給リール（４）と巻取リール（５）間の第１付箋付きテープ（７）の中間部かつ押圧用ローラ（６）の近傍に配置してある。

【００２３】

押圧用ローラ（６）は、本体容器（３）前端の開口（２）にて、回動自在に支軸（９）で支持し、付箋（１５）を貼り付ける紙面等の上で付箋（１５）を押し付けるように回転し、同軸的に一体に設けた駆動歯車（１０）を構成してある。

【００２４】

次に前記第１付箋貼り具の機構の作用について説明する。図１、図５において、第１付箋貼り具（１）を手等で掴み、貼り付ける紙面等の上に押圧用ローラ（６）を押しあて、第１付箋貼り具（１）を矢印Ｂで示すように後方へ移動させることにより、押圧用ローラ（

６）を矢印Ｒで示すように時計回りに回転させ、押圧用ローラ（６）に一体的に設けた駆動歯車（１０）が回転し、駆動歯車（１０）と噛合う従動歯車（１２）が回転し、従動歯車（１２）と一体的に設けた巻取リール（５）が矢印Ｓで示すように反時計回りに回転する。

【００２５】

第１付箋付きテープ（７）は、回転する巻取リール（５）により巻き取られることにより引張られ、押圧用ローラ（６）と分離用ローラ（８）間を滑走する。第１付箋付きテープ（７）が引張られることにより、供給リール（４）が回転し、供給リール（４）に装着した第１付箋付きテープ（７）が繰り出す。

【００２６】

図６は、付箋が紙面等に貼り付けられる前の状態を示し、図５に相当する断面図である。図６において、分離用ローラ（８）上に沿うように滑走する第１付箋付きテープ（７）に対し、第１付箋付きテープ（７）の付箋（１５）は、第１付箋付きテープ（７）のテープに連動せずに第１付箋付きテープ（７）のテープから剥離する。

【００２７】

図７は、付箋が紙面等に貼り付けられた状態を示し、図５に相当する断面図である。図７において、第１付箋貼り具（１）を矢印Ｂで示すように後方へ移動させているので、剥離した付箋（１５）が、前方へ、押圧用ローラ（６）下面と貼り付ける紙面等の間に移動し、押圧用ローラ（６）に押し付けられ、紙面等に貼り付けられるとともに、付箋（１５）が剥離した第１付箋付きテープ（７）のテープのみが巻取リール（５）に巻き取られる。

【００２８】

また、図８に示す一実施形態のように、図５に示した実施形態において、分離用ローラ（８）と巻取リール（５）の間に案内用ローラ（２１）を設けてもよい。

【００２９】

次に、図１１に示す一実施形態は、図５に示した実施形態において、分離用ローラ（８）と支軸（１４）に代えて、固定したピン（２６）を設けてある。製造コストが低減できる。

【００３０】

また、前記第１付箋付きテープの使用量が増加するのに伴い、前記巻取リールの巻回量が増し、前記付箋単体１つを貼り付けるのに要する前記押圧用ローラの回転量が増加するのを考慮して、図１２～図１３に示す一実施形態のように設けてもよい。

【００３１】

図１２は、第１付箋付きテープの一部を描いた巻き取り開始時の巻取リール側の部分拡大斜視図、図１３は、第１付箋付きテープの一部を描いた巻き取り途中の巻取リール側の部分拡大斜視図である。第１付箋付きテープ（７）において、前記巻取リールに巻き取られる第１付箋付きテープ（７）の最初の付箋（１５）が貼り付けられる時の、付箋（１５）単体１つを貼り付けるのに要する移動量である作業一工程分のテープ長さ（２３）内にある隙間長さ（２５）にあって、第１付箋付きテープ（７）の直径（２４）を１とした場合、前記巻取リールに巻き取られた時の任意の位置における第１付箋付きテープ（７）の直径（２４Ａ）との対比において、前記任意の位置における第１付箋付きテープ（７）の直径（２４Ａ）側の率を乗じた、付箋（１５）単体１つを貼り付けるのに要する移動量である作業一工程分のテープ長さ（２３Ａ）内にある隙間長さ（２５Ａ）を基本として、付箋（１５）と隙間長さ（２５Ａ）を交互に配列して設けてもよい。

【００３２】

図１２～図１３に示す一実施形態の上記の効果について記す。前記巻取リールに巻き取られる第１付箋付きテープ（７）の直径の変化量、この場合は直径（２４）から直径（２４Ａ）への変化量、に対して、前記巻取リールに巻き取られる第１付箋付きテープ（７）の、付箋（１５）単体１つを貼り付けるのに要する移動量である前記作業一工程分のテープ長さ内にある隙間長さの変化量、この場合は隙間長さ（２５）から隙間長さ（２５Ａ）への変化量、を連動させることにより、付箋（１５）単体１つを貼り付けるのに要する押圧

用ローラ（６）の回転量を第１付箋付きテープ（７）の使用量の変化に関係なく一定にすることができる。

【００３３】

次に、本発明の一実施形態である第２付箋付きテープについて記す。図面は本発明の一実施形態を示し、図１６は、第２付箋付きテープの一部を描いた部分縮小平面図、図１７は、図１６における０９－０１０線断面図である。図１６～図１７において、第２付箋付きテープは、接着剤（１７ａ）を塗布した付箋（１５ａ）をテープ（１６ａ）に貼着し配し、孔（３３）を設けてある。

【００３４】

また、図１６～図１７に示す一実施形態のように、前記第２付箋付きテープにおいて、付箋（１５ａ）と隙間（２２ａ）を交互に配列してもよい。

【００３５】

また、図２２に示す一実施形態のように、図１６に示した実施形態において、前記第２付箋付きテープにあって、付箋（１５ａ）を連続に配列してもよい。

【００３６】

また、図２３に示す一実施形態のように、図２２における０１１－０１２線断面図で、図１７に相当する図であり、前記第２付箋付きテープにあって、テープ（１６ｂ）の幅が付箋（１５ａ）の高さより小さくてもよい。テープの材料費を少なくすることができる。

【００３７】

次に、本発明の一実施形態である第２付箋貼り具について記す。図１４は、本発明の第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具の正面図、図１５は、本発明の第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具において、第２付箋付きテープを装着していない、上面から見た図、図１８は、図１５における０７－０８線断面図である。なお、図１４～図１５、図１８～２１、図２７～図３０における左方向を前方とする。

【００３８】

図１４～図１５、図１８～２１、図２７～図３０は、本体容器が透明であり、本体容器内に組込んである機構が透視できる場合を示してある。

【００３９】

図１４、図１８に示す一実施形態において、第２付箋貼り具は、本体容器（３ａ）内に巻取リール（５ａ）を配設し、前端が開口（２ａ）する本体容器（３ａ）内の開口（２ａ）部に押圧用ローラ（６ａ）を設け、第２付箋付きテープ（７ａ）の繰り出す空間（２９）より未使用の第２付箋付きテープ（７ａ）を繰り出して第２分離用ローラ（８ａ）により引張り、使用後の第２付箋付きテープ（７ａ）を巻取リール（５ａ）に巻き取らせるようにしてある。

【００４０】

また、図２４に示す一実施形態のように、図１４における第２付箋付きテープ（７ａ）を繰り出す空間（２９）の部分拡大斜視図を示し、第２付箋付きテープ（７ａ）の繰り出す空間内に巻き回した第２付箋付きテープ（７ａ）を支える枠体（３０）を設けてもよい。

【００４１】

また、図２５に示す一実施形態のように、図１４における第２付箋付きテープ（７ａ）を繰り出す空間（２９）の部分拡大斜視図を示し、第２付箋付きテープ（７ａ）の繰り出す空間内に折畳んだ第２付箋付きテープ（７ａ）を支える枠体（３０ａ）を設けてもよい。

【００４２】

図１４～図１８において、押圧用ローラ（６ａ）は、本体容器（３ａ）前端の開口（２ａ）部にて、回動自在に支軸（９ａ）で支持し、付箋（１５ａ）を貼り付ける紙面等の上で付箋（１５ａ）を押し付けるように回転し、駆動歯車（１０ａ）を同軸的に一体に設けてある。

【００４３】

第２分離用ローラ（８ａ）は、回動自在に支軸（１４ａ）で支持し、繰り出した第２付箋付きテープ（７ａ）を第２分離用ローラ（８ａ）に沿わせて湾曲させることで第２付箋付

きテープ（７ａ）より付箋（１５ａ）が剥離する湾曲させた場所に設け、第２付箋付きテープ（７ａ）を繰り出す空間（２９）と巻取リール（５ａ）間の第２付箋付きテープ（７ａ）の中間部かつ押圧用ローラ（６ａ）の近傍に配置してある。第２付箋付きテープ（７ａ）に設けた孔（３３）と嵌合する突起（３４）を第２分離用ローラ（８ａ）の表面に周設し、第２分離用ローラ（８ａ）の円筒部の外周に沿わせた第２従動歯車（３５）を第２分離用ローラ（８ａ）に同軸的に一体に設け、第２従動歯車（３５）を駆動歯車（１０ａ）に噛み合うよう配置してある。

【００４４】

第３従動歯車（２７）は、回動自在に支軸（２８）で支持し、第２従動歯車（３５）に噛み合うよう設けてある。

【００４５】

巻取リール（５ａ）は、回動自在に支軸（１１ａ）で支持し、巻取リール（５ａ）の円筒部の外周に沿わせた第４従動歯車（１２ａ）を同軸的に一体に設け、第４従動歯車（１２ａ）を第３従動歯車（２７）に噛合うよう配置し、使用後の第２付箋付きテープ（７ａ）を巻取リール（５ａ）の回転により巻き取るよう構成してある。なお、巻取リール（５ａ）に、公知の技術である転写具の逆転防止機構を設けてもよい。

【００４６】

次に、本発明の一実施形態である第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具の供給リールについて記す。図１４～図１８において、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具（１ａ）は、本体容器（３ａ）内に供給リール（４ａ）を配設してある。

【００４７】

供給リール（４ａ）は、第２付箋付きテープ（７ａ）の繰り出す空間（２９）内に設け、回動自在に支軸（１３ａ）で支持し、未使用の第２付箋付きテープ（７ａ）を装着し、回転により繰り出すように構成してある。なお、供給リール（４ａ）に、公知の技術である転写具の逆転防止機構を設けてもよい。

【００４８】

また、図示しないが、第２付箋付きテープ（７ａ）の使用量が多い場合において、第２分離用ローラ（８ａ）が第２付箋付きテープ（７ａ）を移動させる速度と巻取リール（５ａ）が第２付箋付きテープ（７ａ）を巻き取る速度との差が大きい場合を考慮して、転写具にて公知の技術であるリールの円筒部の滑り回動で回復するクラッチ機構を巻取リール（５ａ）の円筒部（３２）に設ける。

【００４９】

次に前記第２付箋貼り具を含む前記第３付箋貼り具の機構の作用について説明する。図１４、図１８において、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具（１ａ）を手等で掴み、貼り付ける紙面等の上に押圧用ローラ（６ａ）を押しあて、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具（１ａ）を矢印Ｂで示すように後方へ移動させることにより、押圧用ローラ（６ａ）を矢印Ｒで示すように時計回りに回転させ、押圧用ローラ（６ａ）に一体的に設けた駆動歯車（１０ａ）が回転し、駆動歯車（１０ａ）と噛合う第２従動歯車（３５）が回転し、第２従動歯車（３５）に一体的に設けた第２分離用ローラ（８ａ）が矢印Ｓで示すように反時計回りに回転し、第２従動歯車（３５）と噛合う第３従動歯車（２７）が時計回りに回転し、第３従動歯車（２７）と噛合う第４従動歯車（１２ａ）が回転し、第４従動歯車（１２ａ）に一体的に設けた巻取リール（５ａ）が反時計回りに回転する。

【００５０】

図１４～図１８において、第２付箋付きテープ（７ａ）の孔（３３）が、回転する第２分離ローラ（８ａ）の突起（３４）と嵌合することにより、第２付箋付きテープ（７ａ）が引張られ、供給リール（４ａ）が回転し、供給リール（４ａ）に装着した未使用の第２付箋付きテープ（７ａ）が繰出す。回転する巻取リール（５ａ）により、第２付箋付きテープ（７ａ）は押圧用ローラ（６ａ）と第２分離用ローラ（８ａ）間を通過し、使用後の第２付箋付きテープ（７ａ）が巻き取られる。

【００５１】

また、第２付箋付きテープ（７ａ）の使用量が多い場合において、第２付箋付きテープ（７ａ）の使用量が増加するのに伴い、巻取リール（５ａ）側の巻回量が増し、第２分離用ローラ（８ａ）側が第２付箋付きテープ（７ａ）を引張る速度と巻取リール（５ａ）側が第２付箋付きテープ（７ａ）を巻き取る速度との差が大きい場合がある。

【００５２】

公知の技術である転写具において、該転写具の駆動歯車と該転写具の繰り出し円筒部が一体的に回動し、また、該転写具の繰り出しと該転写具の巻き取りの連度の同期が崩れた時は、該転写具の該駆動歯車に対して該転写具の該繰り出し円筒部が滑り回動して両速度の同期を回復できるようにしたクラッチ機構が具有されてる。本発明の巻取リール（５ａ）の円筒部（３２）に公知の技術である該転写具の該クラッチ機構を設ける。

【００５３】

該クラッチ機構により、第２分離用ローラ（８ａ）が第２付箋付きテープ（７ａ）を引張る速度と巻取リール（５ａ）が第２付箋付きテープ（７ａ）を巻き取る速度との差を巻取リール（５ａ）の円筒部（３２）の滑り回動で回復する。

【００５４】

図１９は、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具において、付箋が紙面等に貼り付けられる前の状態を示し、図１８に相当する断面図である。図１９において、回転する第２分離用ローラ（８ａ）上の第２付箋付きテープ（７ａ）に対し、第２付箋付きテープ（７ａ）の付箋（１５ａ）は、第２付箋付きテープ（７ａ）のテープに連動せずに第２付箋付きテープ（７ａ）のテープから剥離する。

【００５５】

図２０は、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具において、付箋が紙面等に貼り付けられた状態を示し、図１８に相当する断面図である。図２０において、第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具（１ａ）を矢印Ｂで示すように後方へ移動させているので、剥離した付箋（１５ａ）が、前方へ、押圧用ローラ（６ａ）下面と貼り付ける紙面等の間に移動し、押圧用ローラ（６ａ）に押し付けられ、紙面等に貼り付けられるとともに、付箋（１５ａ）が剥離した第２付箋付きテープ（７ａ）のテープのみが巻取リール（５ａ）に巻き取られる。

【００５６】

また、図２１に示す一実施形態のように、図１８に示した実施形態において、第２分離用ローラ（８ａ）と巻取リール（５ａ）の間に案内用ローラ（２１ａ）を設けてもよい。

【００５７】

次に、図２６に示す一実施形態は、図５または図１８における押圧用ローラの部分拡大断面図を示し、押圧用ローラ（６）（６ａ）の表面に凹凸を設けた構成となっている。図示しないが、凸部の先端が尖っていてもよい。また、前記押圧用ローラの表面がセレーションあるいはスプライン等の歯形であってもよい。前記付箋をより確実に貼り付けることができる。

【００５８】

また、図示しないが、駆動歯車（１０）（１０ａ）に合致させて、押圧用ローラ（６）（６ａ）の表面を同一になるように設けてもよい。

【００５９】

また、図２７に示す一実施形態のように、図１に示した実施形態において、駆動歯車（１０）と従動歯車（１２）に代えて、支軸（９）と支軸（１１）の間に、相互に噛み合う歯車列（１８）を設けてもよい。各歯車単体の面積を小さくすることができるので、全体の歯車の合計面積を少なくすることが可能となり、材料費が低減できる。

【００６０】

また、図２８に示す一実施形態のように、図１に示した実施形態において、駆動歯車（１０）と従動歯車（１２）に代えて、支軸（９）と支軸（１１）の間に、回転用のベルト（１９）とプーリ（２０）を設けてもよい。材料を少なくすることができ、費用が低減できる。

【００６１】
次に、図示しないが、本発明の一実施形態は、駆動歯車（１０）と従動歯車（１２）に代えて、支軸（９）と支軸（１１）の間に、相互に噛み合う歯車列（１８）と回転用のベルト（１９）とプーリ（２０）を同時に設ける。
【００６２】
次に、図２９に示す一実施形態は、図１４に示した実施形態において、駆動歯車（１０ａ）、第２従動歯車（３５）、第３従動歯車（２７）、第４従動歯車（１２ａ）に代えて、支軸（９ａ）と支軸（１１ａ）の間に、相互に噛み合う歯車列（１８ａ）、回転用のベルト（１９ａ）、プーリ（２０ａ）を設けてある。歯車数を少なくすることができるので、製造コストが低減できる。
【００６３】
また、図３０に示す一実施形態のように、図１８に示した実施形態において、第２付箋付きテープ（７ａ）の繰り出す空間（２９）と第２分離用ローラ（８ａ）の間に前記第２付箋付きテープに設けた前記孔と嵌合する突起を周設した案内用ローラ（２１ｂ）を設けてもよい。
【００６４】
次は、本発明の一実施形態である、前記第１付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジについて記す。図は、本発明の一実施形態であり、図３１は、第１付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの第２本体容器の正面図、図３２は、図３１における１３－１４線断面を分解した図、図３３は、第１付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの交換用容器の正面図、図３４は、図３３における１５－１６線断面を分解した図、図３９は、交換用容器の巻取リール、第２分離用ローラの凹部の部分拡大図、図４０は、交換用容器の従動歯車、第２従動歯車、第４従動歯車のボス部の凸部の部分拡大図である。また、図３１～図３４は、第２本体容器及び交換用容器が透明であり、第２本体容器及び交換用容器内に組込んである機構が透視できる場合を示してある。
【００６５】
図３２において、第２本体容器は第２本体容器甲（３ｂ１）と第２本体容器乙（３ｂ２）のように分解してもよい。前記第１付箋貼り具において、図３１～３４、図３９～図４０において、第２本体容器（３ｂ）内に交換可能に装着されるものであって、交換用容器（３６）内に、供給リール（４ｂ）と分離用ローラ（８ｂ）と巻取リール（５ｂ）を配設し、供給リール（４ｂ）に巻回した未使用の第１付箋付きテープ（７ｂ）が分離用ローラ（８ｂ）を通過した後、使用後の第１付箋付きテープ（７ｂ）を巻取リール（５ｂ）で巻き取るようにしてある。
【００６６】
供給リール（４ｂ）は、回転可能に支軸（１３ｂ）で支持し、未使用の第１付箋付きテープ（７ｂ）を装着し、回転により繰り出すよう構成してある。
【００６７】
巻取リール（５ｂ）は、回転可能に支軸（１１ｃ）で支持し、使用後の第１付箋付きテープ（７ｂ）を巻取リール（５ｂ）の回転により巻き取るよう構成し、巻取リール（５ｂ）の内面の中空の同一円上に例えば６ヶ所の凹部（４０）を配置してある。
【００６８】
分離用ローラ（８ｂ）は、回転可能に支軸（１４ｂ）で支持し、繰り出した第１付箋付きテープ（７ｂ）を分離用ローラ（８ｂ）に沿わせて湾曲させることで第１付箋付きテープ（７ｂ）より付箋（１５ｂ）が剥離する湾曲させた場所に設け、供給リール（４ｂ）と巻取リール（５ｂ）間の第１付箋付きテープ（７ｂ）の中間部かつ交換用容器（３６）の開口（２ｂ）部近傍に配置してある。
【００６９】
第２本体容器（３ｂ）内に回転可能に設けた従動歯車（１２ｂ）のボス部（３１）に巻取リール（５ｂ）の凹部（４０）を挿入すると、ボス部（３１）の同一円上に例えば４ヶ所に設けた凸部（３８）とが係合し、従動歯車（１２ｂ）と巻取リール（５ｂ）が一体回転

可能になる。

【００７０】

次は、本発明の一実施形態である、前記第２付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジについて記す。図は、本発明の一実施形態であり、図３５は、第２付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの第３本体容器の正面図、図３６は、図３５における１７－１８線断面を分解した図、図３７は、第２付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの交換用容器の正面図、図３８は、図３７における１９－２０線断面を分解した図である。また、図３５～図３８は、第３本体容器及び交換用容器が透明であり、第３本体容器及び交換用容器内に組込んである機構が透視できる場合を示してある。

【００７１】

図３６において、第３本体容器は第３本体容器甲（３ｃ１）と第３本体容器乙（３ｃ２）のように分解してもよい。前記第２付箋貼り具において、図３５～４０において、第３本体容器（３ｃ）内に交換可能に装着されるものであって、交換用容器（３６ａ）内に、供給リール（４ｃ）と第２分離用ローラ（８ｃ）と巻取リール（５ｃ）を配設し、供給リール（４ｃ）に巻回した未使用の第２付箋付きテープ（７ｃ）が第２分離用ローラ（８ｃ）を通過した後、使用後の第２付箋付きテープ（７ｃ）を巻取リール（５ｃ）で巻き取るようにしてある。

【００７２】

供給リール（４ｃ）は、回転可能に支軸（１３ｃ）で支持し、未使用の第２付箋付きテープ（７ｃ）を装着し、回転により繰り出すよう構成してある。

【００７３】

巻取リール（５ｃ）は、回転可能に支軸（１１ｅ）で支持し、使用後の第２付箋付きテープ（７ｃ）を巻取リール（５ｃ）の回転により巻き取るよう構成し、巻取リール（５ｃ）の内面の中空の同一円上に例えば６ヶ所の凹部（４０ａ）を配置してある。

【００７４】

第３本体容器（３ｃ）内に回転可能に設けた第４従動歯車（１２ｃ）のボス部（３１ａ）に巻取リール（５ｃ）の凹部（４０ａ）を挿入すると、ボス部（３１ａ）の同一円上に例えば４ヶ所に設けた凸部（３８ａ）とが係合し、第４従動歯車（１２ｃ）と巻取リール（５ｃ）が一体回転可能になる。

【００７５】

第２分離用ローラ（８ｃ）は、回転可能に支軸（１４ｄ）で支持し、繰り出した第２付箋付きテープ（７ｃ）を第２分離用ローラ（８ｃ）に沿わせて湾曲させることで第２付箋付きテープ（７ｃ）より付箋（１５ｃ）が剥離する湾曲させた場所に設け、供給リール（４ｃ）と巻取リール（５ｃ）間の第２付箋付きテープ（７ｃ）の中間部かつ交換用容器（３６ａ）の開口（２ｃ）部近傍に配置してある。第２付箋付きテープ（７ｃ）に設けた前記孔と嵌合する突起（３４ａ）を第２分離用ローラ（８ｃ）の表面に周設し、第２分離用ローラ（８ｃ）の内面の中空の同一円上に例えば６ヶ所の凹部（４１）を配置してある。

【００７６】

第３本体容器（３ｃ）内に回転可能に設けた第２従動歯車（３５ａ）のボス部（３７）に第２分離用ローラ（８ｃ）の凹部（４１）を挿入すると、ボス部（３７）の同一円上に例えば４ヶ所に設けた凸部（３９）とが係合し、第２従動歯車（３５ａ）と第２分離用ローラ（８ｃ）が一体回転可能になる。

【００７７】

また、図示しないが、前記凸部と前記凹部に代えて、セレーションまたはスプライン等の歯形係合部を設けてもよい。

【図面の簡単な説明】

【００７８】

【図１】本発明の一実施形態の第１付箋貼り具の正面図である。

【図２】本発明の一実施形態の第１付箋貼り具において、第１付箋付きテープを装着して

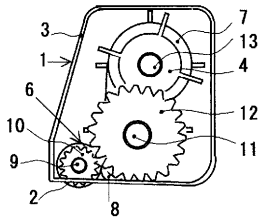
いない、上面から見た図である。
【図３】本発明の一実施形態の第１付箋付きテープの一部を描いた部分縮小平面図である。
【図４】図３における０１－０２線断面図である。
【図５】図２における０５－０６線断面図である。
【図６】付箋が紙面等に貼り付けられる前の状態を示し、図５に相当する断面図である。
【図７】付箋が紙面等に貼り付けられた状態を示し、図５に相当する断面図である。
【図８】本発明の他の一実施形態を示し、図５に相当する断面図である。
【図９】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図３に相当する部分拡大平面図である。
【図１０】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図９における０３－０４線断面図で、図４に相当する図である。
【図１１】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図５に相当する断面図である。
【図１２】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、第１付箋付きテープの一部を描いた巻取り開始時の巻取リール側の部分拡大斜視図である。
【図１３】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、第１付箋付きテープの一部を描いた巻取り途中の巻取リール側の部分拡大斜視図である。
【図１４】本発明の一実施形態の第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具の正面図である。
【図１５】本発明の一実施形態の第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具において、第２付箋付きテープを装着していない、上面から見た図である。
【図１６】本発明の一実施形態の第２付箋付きテープの一部を描いた部分縮小平面図である。
【図１７】図１６における０９－０１０線断面図である。
【図１８】図１５における０７－０８線断面図である。
【図１９】付箋が紙面等に貼り付けられる前の状態を示し、図１８に相当する断面図である。
【図２０】付箋が紙面等に貼り付けられた状態を示し、図１８に相当する断面図である。
【図２１】本発明の他の一実施形態を示し、図１８に相当する断面図である。
【図２２】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１６に相当する部分縮小平面図である。
【図２３】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図２２における０１１－０１２線断面図で、図１７に相当する図である。
【図２４】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１４における第２付箋付きテープを繰り出す空間の部分拡大斜視図である。
【図２５】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図２４に相当する部分大斜視図である。
【図２６】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１８における押圧用ローラの部分拡大断面図である。
【図２７】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１に相当する正面図である。
【図２８】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１に相当する正面図である。
【図２９】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１４に相当する正面図である。
【図３０】同じく、本発明の他の一実施形態を示し、図１８に相当する断面図である。
【図３１】本発明の一実施形態である、第１付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの第２本体容器の正面図である。
【図３２】図３１における１３－１４線断面を分解した図である。
【図３３】第１付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの交換用容器の正面図である。
【図３４】図３３における１５－１６線断面を分解した図である。
【図３５】本発明の一実施形態である、第２付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの第３本体容器の正面図である。

【図３６】図３５における１７－１８線断面を分解した図である。
【図３７】第２付箋付きテープを使う付箋貼り具用テープカートリッジの交換用容器の正面図である。
【図３８】図３７における１９－２０線断面を分解した図である。
【図３９】交換用容器の巻取リール、第２分離用ローラの凹部の部分拡大図である。
【図４０】交換用容器の従動歯車、第２従動歯車、第４従動歯車のボス部の凸部の部分拡大図である。
【符号の説明】
【００７９】
（１）　第１付箋貼り具
（１ａ）　第２付箋貼り具を含む第３付箋貼り具
（２）　開口
（２ａ）　開口
（２ｂ）　開口
（２ｃ）　開口
（３）　本体容器
（３ａ）　本体容器
（３ｂ）　第２本体容器
（３ｂ１）　第２本体容器甲
（３ｂ２）　第２本体容器乙
（３ｃ）　第３本体容器
（３ｃ１）　第３本体容器甲
（３ｃ１）　第３本体容器乙
（４）　供給リール
（４ａ）　供給リール
（４ｂ）　供給リール
（４ｃ）　供給リール
（５）　巻取リール
（５ａ）　巻取リール
（５ｂ）　巻取リール
（５ｃ）　巻取リール
（６）　押圧用ローラ
（６ａ）　押圧用ローラ
（６ｂ）　押圧用ローラ
（６ｃ）　押圧用ローラ
（７）　第１付箋付きテープ
（７ａ）　第２付箋付きテープ
（７ｂ）　第１付箋付きテープ
（７ｃ）　第２付箋付きテープ
（８）　分離用ローラ
（８ａ）　第２分離用ローラ
（８ｂ）　分離用ローラ
（８ｃ）　第２分離用ローラ
（９）　支軸
（９ａ）　支軸
（９ｂ）　支軸
（９ｃ）　支軸
（１０）　駆動歯車
（１０ａ）　駆動歯車
（１０ｂ）　駆動歯車

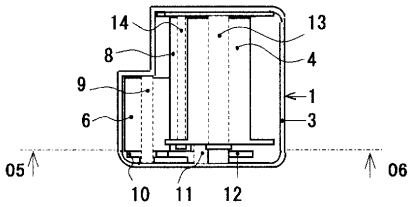
（１０ｃ）　駆動歯車
（１１）　支軸
（１１ａ）　支軸
（１１ｂ）　支軸
（１１ｃ）　支軸
（１１ｄ）　支軸
（１１ｅ）　支軸
（１２）　従動歯車
（１２ａ）　第４従動歯車
（１２ｂ）　従動歯車
（１２ｃ）　第４従動歯車
（１３）　支軸
（１３ａ）　支軸
（１３ｂ）　支軸
（１３ｃ）　支軸
（１４）　支軸
（１４ａ）　支軸
（１４ｂ）　支軸
（１４ｃ）　支軸
（１４ｄ）　支軸
（１５）　付箋
（１５ａ）　付箋
（１５ｂ）　付箋
（１５ｃ）　付箋
（１６）　テープ
（１６Ａ）　テープ
（１６ａ）　テープ
（１６ｂ）　テープ
（１７）　接着剤
（１７ａ）　接着剤
（１８）　歯車列
（１８ａ）　歯車列
（１９）　ベルト
（１９ａ）　ベルト
（２０）　プーリ
（２０ａ）　プーリ
（２１）　案内用ローラ
（２１ａ）　案内用ローラ
（２１ｂ）　案内用ローラ
（２２）　隙間
（２２ａ）　隙間
（２３）　テープ長さ
（２３Ａ）　テープ長さ
（２４）　直径
（２４Ａ）　直径
（２５）　隙間長さ
（２５Ａ）　隙間長さ
（２６）　ピン
（２７）　第３従動歯車
（２７ａ）　第３従動歯車

（２８）　支軸
（２８ａ）　支軸
（２９）　空間
（３０）　枠体
（３０ａ）　枠体
（３１）　ボス部
（３１ａ）　ボス部
（３２）　円筒部
（３３）　孔
（３４）　突起
（３４ａ）　突起
（３５）　第２従動歯車
（３５ａ）　第２従動歯車
（３６）　交換用容器
（３６ａ）　交換用容器
（３７）　ボス部
（３８）　凸部
（３８ａ）　凸部
（３９）　凸部
（４０）　凹部
（４０ａ）　凹部
（４１）　凹部
（４２）　開口部

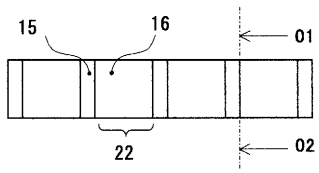
【図１】



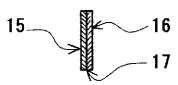
【図２】



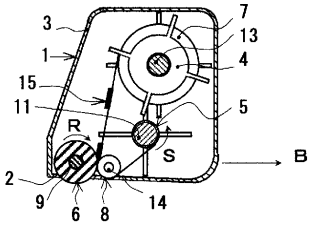
【図３】



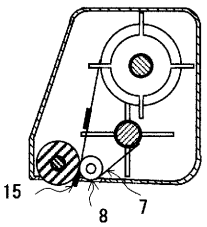
【図４】



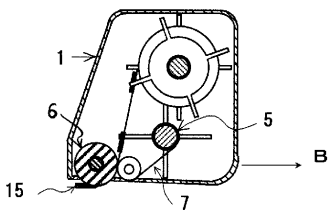
【図５】



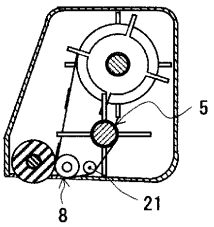
【図６】



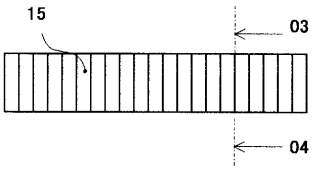
【図７】



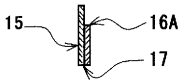
【図８】



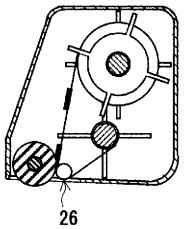
【図９】



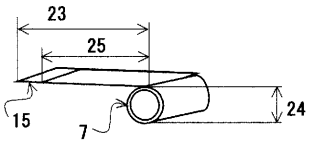
【図１０】



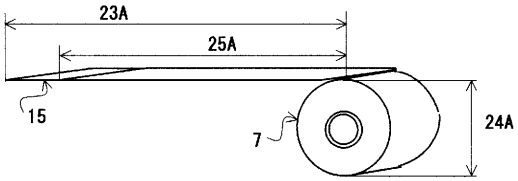
【図１１】



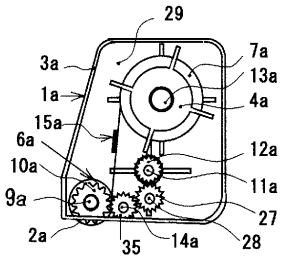
【図１２】



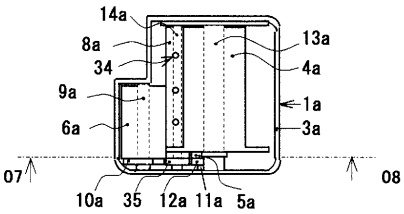
【図１３】



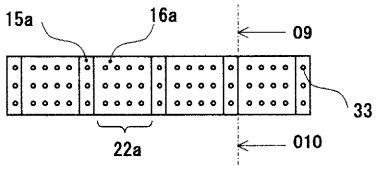
【図１４】



【図１５】



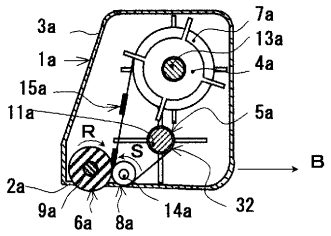
【図１６】



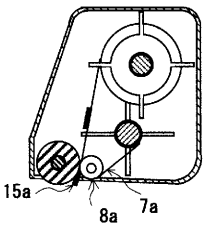
【図１７】



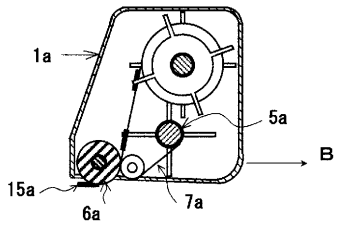
【図１８】



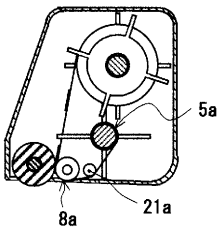
【図１９】



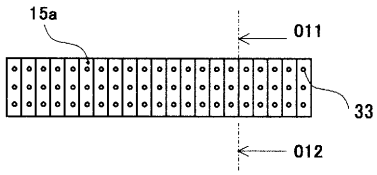
【図２０】



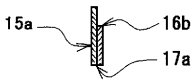
【図２１】



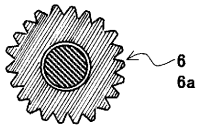
【図２２】



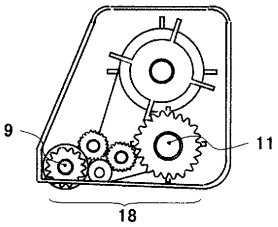
【図２３】



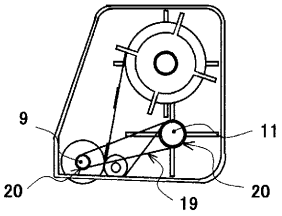
【図２６】



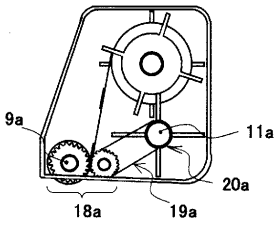
【図２７】



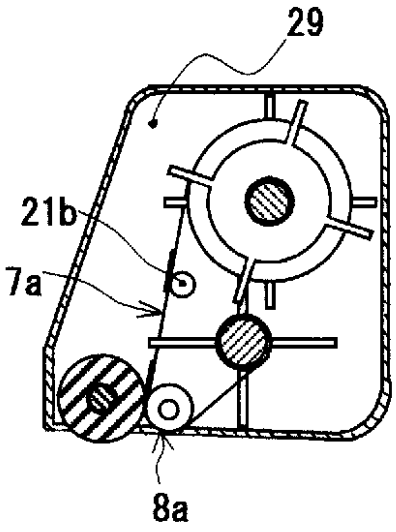
【図２８】



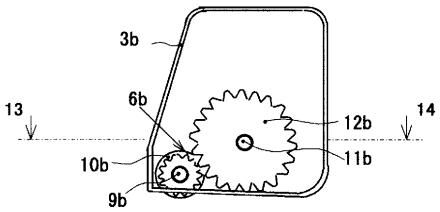
【図２９】



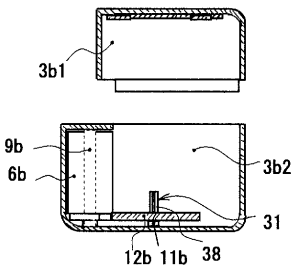
【図３０】



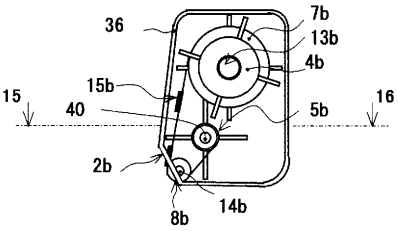
【図３１】



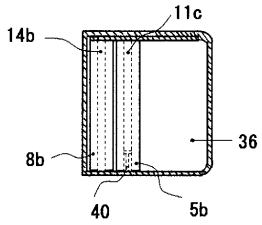
【図３２】



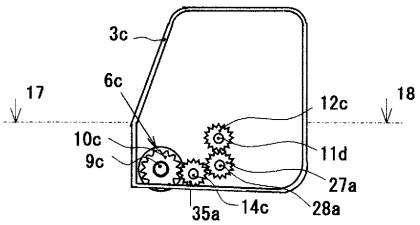
【図３３】



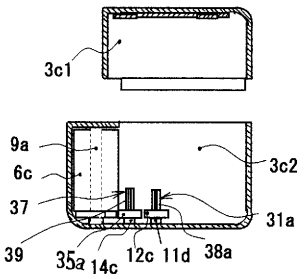
【図３４】



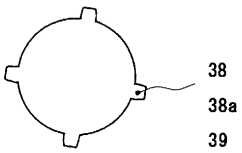
【図３５】



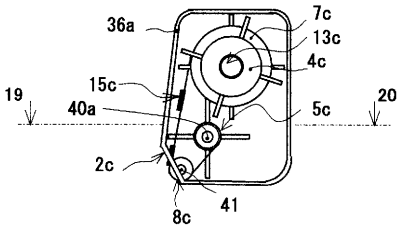
【図３６】



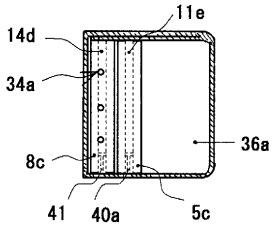
【図４０】



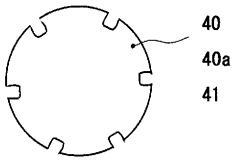
【図３７】



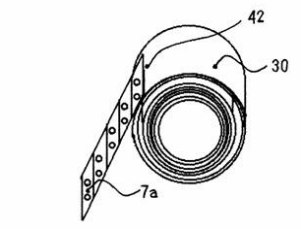
【図３８】



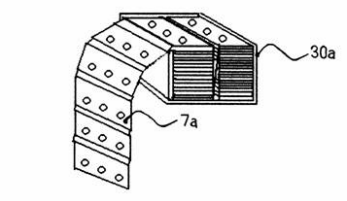
【図３９】



【図２４】



【図２５】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. FI
B65H 41/00 C

(56)参考文献 実公昭４７－１４３８（ＪＰ，Ｙ１）
特開平１１－２２７３８７（ＪＰ，Ａ）
特開平４－２０１８３７（ＪＰ，Ａ）
特開平８－１３３２５９（ＪＰ，Ａ）
実開昭６１－２０４７９７（ＪＰ，Ｕ）
特開２００１－１０７６０（ＪＰ，Ａ）
特開２００１－１０２９１（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ４２Ｄ １／００－１５／１０
Ｂ４２Ｆ ２１／０４－２１／０６
Ｂ４３Ｌ １９／００
Ｂ６５Ｃ １／００－１１／０６
Ｂ６５Ｈ ４１／００